知床博物館研究報告 Bulletin of the
Shiretoko Museum 30: 95–96 (2009)

知床半島新産の絶滅危惧植物フォーリーガヤ（イネ科）

浅沼 孝夫

086-1751 北海道目梨郡羅臼町峯浜 524

Threatened Plant *Schizachne purpurascens* subsp. *callosa* (POACEAE) Newly Found in Shiretoko Peninsula, Hokkaido

ASANUMA Takao

Minehama 524, Rausu, Hokkaido 086-1751, Japan. site@shiretoko.org.

フォーリーガヤ *Schizachne purpurascens* (Torr.) Swallen subsp. *callosa* (Turcz. ex Griseb.) T. Koyama & Kawanoは，国内では北海道および本州中部以北の亜高山帯に，国外ではシベリア東部から極東に分布するイネ科の多年生草本である（長田1993）．また本種は2007年版の環境省レッドリストでは絶滅危惧IA類（CR）と判定されている絶滅危惧植物である（環境省ウェブサイト http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648）．

筆者は2008年6月に知床半島の羅臼岳においてこれまで知床半島では未記録であったフォーリーガヤを確認したので生育地の環境とあわせて報告する．

本種が確認されたのは羅臼岳南東側の登山道に沿った標高約600–690 mの地点で，羅臼川水系登山川左岸の乾燥した西向き斜面である．ここには「第一の壁」とよばれる安山岩質の岩壁が南北約580 mの長さでのびており，岩壁下側は岩壁由来の岩屑からなる斜度約40°の斜面になっている．フォーリーガヤはこの第一の壁に沿った岩屑斜面に生育しており，幅は最大で約40 m，長さ約530 mの帯状の区域約2 haに694株の開花個体が確認された．

生育地となっているのは主に斜面のうちでもミズナラやトドマツの混生するダケカンバ林の林床で，草地では少なかった．またこのダケカンバ林の林床ではクマイザサの優占する群落とショウジョウスゲが優占する群落がみられたが，フォーリーガヤがみられたのは後者で，ここではほかにミヤマワラビ，ツタウルシ，エゾアカバナ，ヒメイチゲ，ハナヒリノキ，ヒメノガリヤス，コメススキなどがみられた．

また生育地の付近には「第二の壁」という景観のよく似た岩壁があり，第一の壁と同様に岩壁下側に岩屑斜面が成立している．しかし第二の壁周辺ではダケカンバ林の林床においても本種はみられなかった．第二の壁におけるダケカンバ林の林床は第一の壁に比べてより広範囲にクマイザサに覆われ，ショウジョウスゲの優占する群落は表土がより発達して岩屑のあいだを埋め，土壌が安定している．これは第一の壁周辺の浮き石が多く不安定な土壌と対照的で，フォーリーガヤが岩壁から常に岩屑が供給される土壌の不安定な立地を好むことが推測される．

なお，フォーリーガヤは長さ1 cmを超す円筒形の小穂と，途中で折れずに直立した芒がよく目立つことが特徴的であるが，北海道および知床半島にはこれに似たヤマカモジグサ *Brachypodium sylvaticum*（Huds.）P. Beauv.やエゾムギ属 *Elymus* がある．しかしフォーリーガヤは（1）葉が1–2 mmと細く，（2）小穂には明らかな柄があり，（3）小花の基盤に毛があることでこれらから区別できる．

本報告をまとめるにあたって，斜里町立知床博物館の内田暁友学芸員に指導をいただいた．ここに記して謝意を表す．

採集標本

北海道，根室支庁：目梨郡羅臼町．知床半島，羅臼岳，羅臼川水系登山川流域．2008年6月26日．内田暁友2517，SAPS 021877．

引用文献

長田武正．1993．増補日本イネ科植物図譜．778 pp．平凡社，東京．

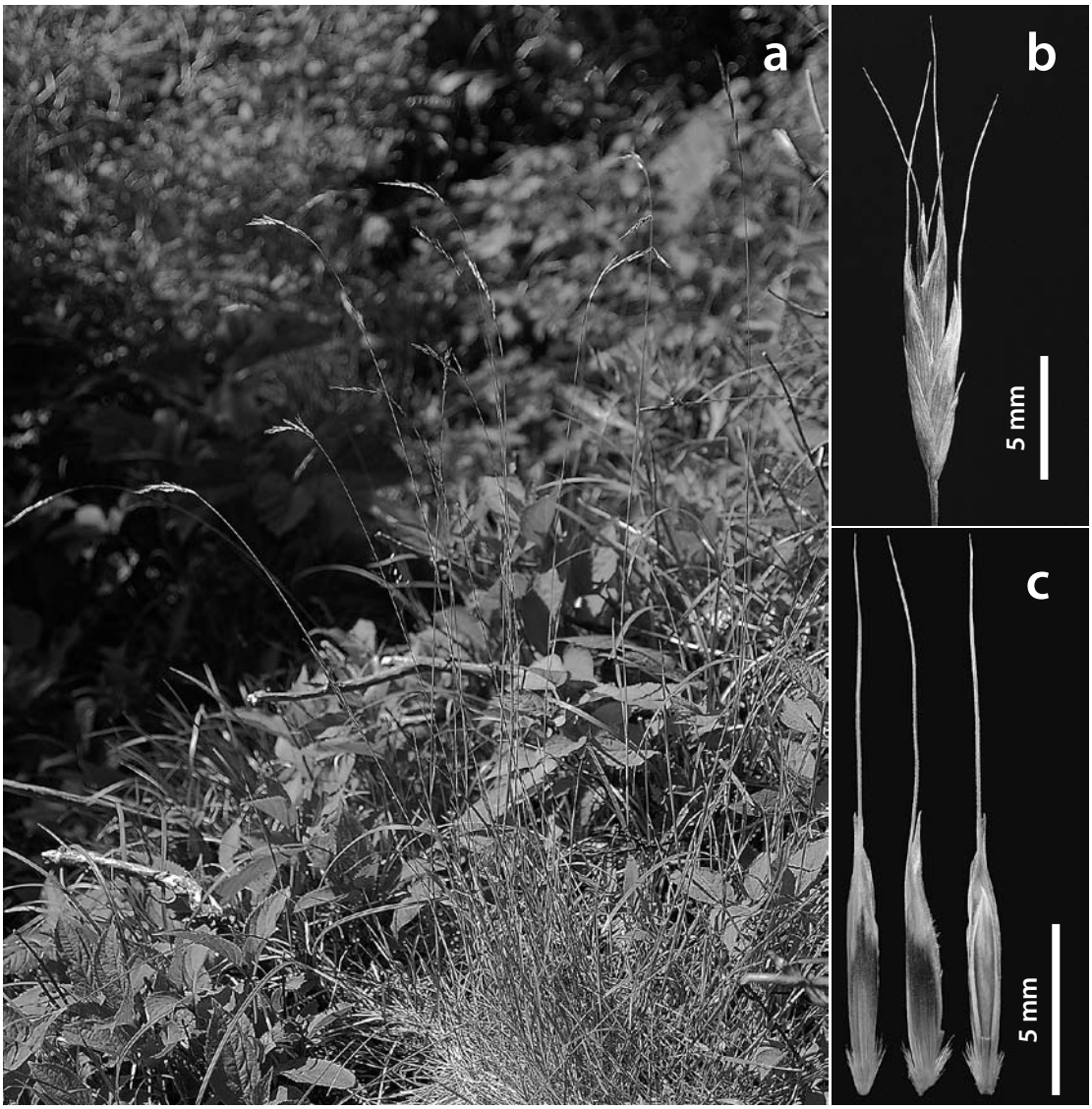

Fig. *Schizachne purpurascens* (Torr.) Swallen subsp. *callosa* (Turcz. ex Griseb.) T. Koyama & Kawano **a**: habit (June 26, 2008, Shiretoko Peninsula, Rausu, Hokkaido). **b**: spikelet. **c**: floret, ventral (left), side (central), and dorsal view (right). b–c: SAPS 021877. Photograph by UCHIDA Akitomo.